

2015 年度国際化に関する外部評価を受けて

副学長・デザイン工学部教授 福田好朗

文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU事業）」に採択されてから2年目の事業を中心に、本学の国際化に関する外部評価が行われた。この1年半のグローバル化の活動は、これからの本学のグローバル化の基礎となる仕組みを作ることであった。グローバル・オープン科目群の設置、英語学位コースの設置、留学生に対応した入試制度などである。また、それらと平行して、学生の外国語教育の充実化や教員の英語授業の研修や職員の研修員制度の拡充など質的な変革もスタートした。その結果として、受け入れ留学生の増加、派遣留学生の増加、協定校の増加などが見られた。

このような活動に対し、評価委員の方々からは、おおむね目標を達成してきており、着実にグローバル化が進んできているとの評価をいただくことができた。これは、関係する多くの学部、研究科や入学センターをはじめとする事務部門がさまざまな施策を進めていただいた結果だと思っている。

一方、評価委員の方々からは、本学のSGU事業の計画は、教育、研究、ガバナンスと多岐に渡った事業が記載されているので、取り組みやすいものから実施し、本質的、構造的な問題に対する取り組みがおろそかにならないようにしてほしいとの指摘もあった。

また、このような事業では、新しい仕組みを作るだけでなく、現在まで実施してきている教育のグローバル通用性の検証や学生全体の底上げも重要であり、多様性が求められる大規模大学のグローバル化の課題であるとの助言も受けた。

今後、グローバル化を推進していくうえで十分に配慮し、問い続けなくてはならない指摘、助言であり、グローバル化の実質化に向けての指針でもある。

今回の評価は、大学の国際化の経験のある委員の方々から構成される経営部会国際化評価グループ委員に、評価をしていただいたので、大学、特に大規模私立大学が、今後、どのように国際化・グローバル化していかなければならないのか、何を考えなくてはいいかを振り返り、さらに推し進めていくうえで良い機会となった。評価に尽力いただいた委員の方々に感謝申し上げる。

最後に、これからも、全学の各部局がグローバル化に向けて積極的に取り組んでいただくことを期待する。